



市政モニターと市長との座談会

去る2月2日、昨年度に引き続き、市政モニターと市長との座談会が開催されました。座談会に先立ち、都市計画課長から南国市の将来のまちづくりの基本的な方針である「都市計画マスタープラン」の策定方法や全体構想図の中の7つの拠点（中心拠点、新産業拠点、歴史・文化の拠点、水と緑の拠点、交流拠点、観光・レクリエーション拠点、定住拠点）づくりなどについて説明が行われた後、「南国市のまちづくりについて」をテーマに座談会が行われました。

市長

昨年は、国体対応に追い回される、また、市町村合併に目を向けた1年ではなかったかと思えます。国体は大成功、大変な感動を呼び起こすような成功でした。一方、市町村合併は、市の方向でした。香美郡と南国市が大同合併を行い、本県における新しい産業拠点をこの地域が担うという構想で進んでいきましたが、香美郡内の自治体状況がどうしても我々と一致しないということで、現時点では、南国市は単独自立という選択です。この点で、市民の皆様方に合併の是非、あるいは組み合わせについて選択をするチャンスを与えることができなかったことは、市長として残念に思っているところです。現在は、自立を目指した行財政計画を建てているところです。また、

国体につきましては、国体パワーを一過性のものとし、今後のまちづくりにこの国体なぜ成功したのか、つまり行政と市民の皆様方の役割分担をして、国体成功という目的を達成したことは、行政の大きな教訓であると考えています。

モニターの皆様には、いろんな分野の提言をいただきましたが、環境問題についての提言・議論が多かったと思っています。おかげさまで、提言のありました、例えば「ごみ袋をもっと小型のものを採用すればいいじゃないか」というようなことがやっと実現し、また「分別資源化をはからなければ意味がない」という提言もありましたが、平成13年度から紙と布を分別資源化、14年度ペットボトルの分別資源化を行い、15年度から

は容器包装リサイクルに沿ってプラスチック容器包装類、こういったものも全部を分別資源化をしていく予定です。このように、テンポは遅いですが、少しずつ実現している、ということをご承知してください。

都市計画課長から都市計画マスタープランの内容説明をさせていただきましたが、南国市のまちづくりは、これからの「玄関交流都市」というメインのスローガンを掲げています。それを支えていく7つの拠点整備が計画されていますが、まだまだ、到達できてないものがたくさんありますので、引き続き努力をしていきたいと思っています。

琴平山周辺の観光レジャー拠点はまだ、基本構想の段階ですが、そのほかを除く6つの拠点については、仕上がってはおりませんが、相当程度、整備されています。その中で、これから拠点としてますます整備をしなくてはならないのが、空港周辺の交流拠点整備です。

その中で、文部科学省の海底コアの調査分析ですが、地球誕生の謎、地震の発生メカニズム、あるいは、海底深く資源として活用できるものがあるのではないかと調

査ですが、これは国際機関が全世界でそのような海底探査をやるとうと、我が国もそれに参加して、その拠点施設が高知大学農学部にできます。総工費48億円、この春完成をいたします。国内の研究者が常駐すると同時に、外国からも研究者が訪れ、また、国際会議も開催されるでしょう。こういうような国際交流を目指して飛躍的に発展するであろう、またさせなければならぬと思います。空港周辺の交流拠点は着々とその交流の核になる市・県・国の施設が整いつつあります。

7つの拠点の筆頭に充てておりました、中心拠点「後免町の再開発事業」を10年程かけてずっとやってきましたが中止する決断をしました。大変な問題を抱えています。それに替わる、今も市役所の前をやっておりますが都市計画街路事業を進めています。再開発事業は中止でしたがそういう骨格を作っていくということに事業を修正をしています。まちづくりを先導する7つの拠点の整備はそのような段階を迎えているということ、ぜひご議論していただければと思います。

企画課長

南国市のまちづくりについて市長の方から説明させていただきました。先ほどの都市計画マスタープランと併せまして、ご意見なり質問がございましたら。

モニター副会長

市民もたくさん勉強しないとイケないと思いますが、行政側ももっと市民に近づかんといかんのじゃないかという思いがしてるんです。

市長

先ほど拠点ということ一通りご説明しましたが、全部ハード面ですよ、でも市政モニターさんのお話を聞いてみると、まちづくりも随分とソフト面の問題とか、いろんな計画を立てる当初段階から市民と一緒にやりましょう、という視点は重要です。ですから僕自身、非常にこの制度で良かったなと思っています。分別収集などはソフトの代表格ですよ。

今年から南海地震に対して、もちろん小中学校といった公立の施設の備えは我々がしなきゃならん備えで市民自らしなきゃならん

自立をめざした新しいまちづくり！

い備えはあると思います。それをはつきりさせていくため、耐震調査を若干南国市が支援しながら、国と県と市が少しずつ支援しながら新年度予算から行っていく、併せて自主防災組織のできてないところもあるので急ぎこの組織を作って、この機会に行政が備えなければならぬもの、市民が備えなければならぬもの、こういったような形を新しく始めていきたい、まさにポスト国体は南海地震だとこれへの備えを成功させた。国体が成功したように、この地震への備えは完全に一体にならなきゃならないと思います。

企画課長 他に…

モニター会員

まちづくりにも関係すると思いますが、教育または文化環境ということで、図書館造りで運動が起こっています、それから文化ホールがないということ、まだ文化ホールを建てる計画は、聞いたことはないです。図書館の方は、どこまで計画が進んでいるのでしょうか？

市長

象徴するような活動拠点が文化の場合、無いということ、文化ホールは否定はしませんけど、ちょっとまだ遠い。図書館は、教育委員会の方でどのような図書館を建造するのか、内容・場所などについて検討しており、建設に向けた研修等の取り組みが進んでいます。

文化施設ですけど、実は今、図書館・公民館の活動のあり方が大きな曲がり角にきています。つまり、元気老人対策ということ。介護予防なんかの問題が出てきた関係で、改めて公民館活動が見直される時期が来ています。ですから17地区公民館は、元気老人対策の拠点・防災の拠点・地域活動の拠点として再編・整備を進めています。

文化会館構想は、いらぬという考えは持っておりませんが、やはり、先になります。

モニター会長

そうですね。無駄を見直すというテーマを上げると、市にいろいろの名目の施設がありますが、多目的に使用すれば無駄はなくなるかも知れません。地域振興で見直しという方向で、無駄を見直しして再利用することは大賛成です。

市長

そういうことで今、岡豊地区公民館を介護予防施設として改築を進めています。介護予防の制度を利用してますので、1億数千万の事業ですけども、市の税金の負担は数百万ということ。その制度にのってやっという今度、岩村を要望しております。しかし、新しい活動内容、モデル事業としてなら、採択の可能性がありますが、一番問題が出ていますのが、元気老人プラス障害者に対するケアの拠点、ボランティアがそこへ集まる、というような相当厳しい内容が入ってきます。

モニター副会長

その公民館の使用の改革のですけど、大賛成です。公立の公民館は、規約があり、政治活動・宗教活動はしてはならない、それから生涯学習関係・福祉関係はいいけれども、他の地域の雑談のほうは、ただお金を払ったらよろしい。そういう意味の規約が

